

**平成17年度 第2回市民企画事業補助金審査委員会  
(平成18年度事業公開プレゼンテーション) 会議録**

- 1 日 時 平成18年2月19日(日) 10:00~18:00
- 2 場 所 クリエイトホール 5階ホール
- 3 出席者 委員：玉野委員長、前野副委員長、西委員、山家委員、伊藤委員  
(欠席：橋本委員、原口委員)
- 事務局：白柳市民活動推進部長、設楽協働推進課長、松日楽課長補佐、  
松岡主査、渡邊主任、三浦主事、山波主事
- 参加者：一般参加 52人  
発表団体関係者 63人

4 議事進行 (司会進行：松日楽課長補佐)

開 会(司会)

白柳部長あいさつ

プレゼンテーションの進め方について (司会より説明)

審査委員紹介(司会より)

応募団体によるプレゼンテーション

【1番 B - - 3】

NPO法人 子どもネット八王子子育て支援事業  
(特定非営利活動法人 子どもネット八王子)

<質疑応答>

玉野委員長 : 講座の内容について、トレーナーの養成という部分以外は、前年度と同じものとなるのか。また、電話相談に関する今年度の予定について補足して欲しい。

発表者 : プレ講座と6回シリーズ講座については、同じ内容である。APトレーナーについては、仲間の中でサポーターを育てたいという意味から新たに加えることとした。  
電話相談については、子ども達からの電話相談を受けているものであり、年間500件ほど相談を受けているが、本補助金申請事業とは別のものである。

玉野委員長 : APトレーナーの養成講座であるが、今後、トレーナーを養成してどのように活かしていく予定なのか。

発表者 : A Pリーダーが講座を行っているが、そのリーダーを育てるトレーナーを養成することによりリーダーの育成が進み、各リーダーがいろいろな地域に入りながら、そこで講座を開催していけるようにしたいと考えている。

前野副委員長 : 講座は、どのような場所で開催しているのか。

発表者 : クリエイトホール、子ども家庭支援センターなどで行っている。

## 【2番 B - 新 - 1】

君にとどきたい愛のコンサート（視覚障害者音楽家とともに）

（八王子フィルハーモニー合唱団）

### < 質疑応答 >

前野副委員長 : 障害者の参加という意味合いからも、聞き手側としての障害者の招待などを考えていただきたい。

発表者 : 以前から視覚障害者の方を招待しており、喜んでいただいている。今回もたくさんの障害者を招待する予定である。ただ、招待者ばかりだと財政的な面で支障が生じるので、その辺も考慮した中で、招待者の人数を考えたい。

玉野委員長 : 事前の広報活動について、団体の特性を活かした形での工夫は。

発表者 : 市の広報やミニコミ誌、またFMラジオ、ロータリークラブなどに協力を要請し、PRしていきたい。

玉野委員長 : ただチラシを配るだけでなく、公演に向けてのパフォーマンスを行うなど、団体の特性を活かしたPRを行っていただきたい。

## 【3番 B - 新 - 2】

野良猫対策による地域生活衛生環境整備事業

（特定非営利活動法人 ねこちゃん協議会）

### < 質疑応答 >

西委員 : プレゼンにもありましたように、人数的にも経済的にも市民のニーズ全てに答えきれないとのことであるが、メンバーを増やすような努力は行っているのか。

発表者 : 人手という面では、八王子市民活動協議会を利用しボランティアの募集等を行っている。また団体のホームページなどでも募集しているが、なかなか確保できない状況がある。

西委員 : 野良猫に関して活動している学生の団体もあるが、それらとの連携はあるのか。

発表者 : 特定の団体にはなってしまうが、他団体との情報交換等を行っている。

前野副委員長 : 野良猫の発生源が問題であると思われるが、飼い主責任等はどう考えているのか。

発表者 : 捨て猫は犯罪だと言うことを訴えてきているが、なかなかわかっていただけないところがある。  
飼い主の責任については、ペットショップに徹底してやってもらいたい。自分達の力だけでは、困難であるのが実態である。ペットの飼育マナー

を徹底しようと言うことはなかなか難しい。既にある状況を改善していかうということに精力を注がざるを得ない。

【4番 B - 新 - 3】

「八王子の手話」ガイドブック  
(八王子市聴覚障害者協会)

< 質疑応答 >

山家委員 : 予算を見るとイラスト単価650円で、3コマ250表現と言うことだが、なかなか引き受け者を見つけるのが大変だと考えるが、いま何人ぐらいの人を予定しているのか。

発表者 : 北区在住の耳の不自由な方をお願いしており、1人である。イラストの本は1人の方がまとめてくれた方がいいとも考えている。

山家委員 : 写真でなくイラストで考えたのは、どのような理由によるものか。

発表者 : イラストの周りは白黒のみであり、鮮明に見える。写真だとどうしても見にくくなってしまうため、イラストとした。

玉野委員長 : この計画だと、作成にあたっては団体の中だけの検討になっており、市民の方には情報が行きわたらないようになってしまいが、作成の過程でも市民の方に情報が公開されるような工夫はできないか。

発表者 : 八王子市聴覚障害者協会では毎月、広報紙を発行している。そういうものを利用しながら、市民にも情報を伝えていきたい。

前野副委員長 : 事業内容がかなり公共的なものであるが、社会福祉協議会などとの連携は考えているのか。

発表者 : 市の心身障害者福祉センターや保健福祉センター、また社会福祉協議会などから情報をもらいながら作っていきたい。

【5番 B - 新 - 4】

【音楽療法って?】推進事業  
(豆の木音楽療法研究所)

< 質疑応答 >

伊藤委員 : どのような形で参加者を募集するのか。また、グループ療法は何人ぐらいのグループで行うのか。

発表者 : 募集については、市の広報への掲載や市民センターなどの施設でのチラシ配付により行っていく。人数については、親子のグループについては10組、成人のグループについてはもう少し多く登録をしていきたい。

伊藤委員 : 10組ぐらいが適当な人数なのか。

発表者 : 場所にもよるが、狭すぎると苦痛になる方もいる。事情により休まれる方もいると思うが、それを考慮したうえで10組としている。実際には他の場所での経験から、6~8組の方がいらっしゃるだろうと考えている。

前野副委員長 : 登録制で活動するようだが、本制度の趣旨である一般に広くという意味合いとの関連をどう考えているか。

発表者 : 登録をすると言うことは、個人情報を守るということも念頭に置いている。また、療法という枠組みを考えると人数的な制限を設けざるを得ない。多くの方からの申し込みがある場合には、2グループに分けて対応することは可能であるが、最初としては、療法の意義、効果を出すためにも10組程度の枠組みで考えていきたい。

前野副委員長 : 療法ということであるが、医療機関との連携を考えているのか。

発表者 : 個人的ではあるが、病院の医師や作業療養士との関わりがある。ただ、広報等について協力いただけるという状況には至っていない。

#### 【6番 B - 新 - 5】

八王子子ども祭り

(八王子子ども祭り実行委員会)

##### < 質疑応答 >

玉野委員長 : これまでの予算規模は。

発表者 : 70～80万円の予算で実施していた。

玉野委員長 : 今回、補助金を受けたとしても、規模は変わらないと理解していいのか。

発表者 : ミニSLや乗馬など、子ども達に人気のあるコーナーについて充実していきたいと考えている。

玉野委員長 : 補助金に応募して援助を受けることにより、特に人気の部分について、費用をかけたいということでもいいのか。

発表者 : そういうことも含めて、充実を図っていきたい。

山家委員 : ボランティアの方が大勢協力していると思うが、何人ぐらいのボランティアが参加しているのか。

発表者 : 学生が50人ぐらい、実行委員が200人ぐらいになる。

山家委員 : 実行委員というのは、催しに出店される方以外に一般の方もいるのか。

発表者 : 出店される方だけでなく、事前の準備や片付けもありそれぞれの場面で協力いただける方をお願いしている。また、ボランティアの公募も行っている。

山家委員 : 長年やっておられるが、子どもの頃に遊びにきて、その後成長しボランティアとして参加しているような方もいるのか。

発表者 : そのような方もいる。

玉野委員長 : 補助を受けることで、より充実していく、広がっていくといった内容にしていきたい。財政的に苦しくなってきたので、何とかといったことではなく、よりステップアップしていくということを考えていただきたい。

発表者 : 新しい企画も盛り込んで行きたいと考えている。

#### 【7番 B - 新 - 6】

子育て支援と高齢者の生きがいづくり事業

(なごみ)

< 質疑応答 >

前野副委員長： 空き店舗を活用していくとのことであるが、先々での自立の見通しについてはどのように考えているか。民間の空き店舗を使うとなるとかなりの経費がかかってくることになるが。

発表者： その部分については、十分検討を行っている。定休日である水曜日以外は店を開き、サロン活動を中心に活動を行っていく。その中で、喫茶・軽食や惣菜の販売をして、店舗の借上料や光熱水費を捻出していく。また、イベント収入を考えながら、この活動を継続できるようにボランティアの輪を広げていき、その方々の協力や賛助金などを得ながら活動していきたい。団体としては、この活動を市内の各地域へ広げていきたいという夢を持っており、3年や4年で挫折することがないような覚悟でいる。

前野副委員長： 計画書では週5日の活動計画となっているが、店舗の家賃等もあり、フルに活動しなければ採算がとれないのでは。そうったところに不安がある。

発表者： 定休日である水曜日を除き、週6日間の活動を予定している。

【8番 B - 新 - 7】

フォーラム「障害者をつくるパフォーマンス・アーツの可能性と課題」

(AIR - 空 - パフォーマンス・アーツ研究会)

< 質疑応答 >

西委員： フォーラムや活動内容をお聞きした中では、専門的な内容でありなかなか入りにくいと感じたが、広報についてどのように取り組んでいるのか。予算をみると200人の参加者を見込んでいるが、それだけの人に参加してもらうのはかなり難しいと思うが、どのような対策を考えているのか。

発表者： 200人という人数はそれほど難しいものではないと考えている。公演には500人からの人に来ていただいている。フォーラムではパフォーマンス・アーツが作られていく過程を詳しくやって行きたいと考えており、興味があって来られる方が200人はいると思っている。できれば学生や教育の分野に関わっている方が、その過程について知っていただいたり、お互いに新しい発見をしていけたらと考えている。また4期からの連続講座を進めていくために、環境や人材、財政的な面において工夫していかなければならないところがあるが、それについてもフォーラムで課題として話し合い、深めていきたい。

西委員： 実際の広報活動はどうしていくのか。

発表者： 公演の時にチラシを配るとともに、「タニシ」というスクールマガジンを1,000部ほど発行しているため、その中でも告知していく。その他、新聞など一般のメディアを利用した広報を行っていく。

西委員： 学生の立場としても、すごく勉強になることだと思っており、学生に周知が行き届くような配慮をしていただきたい。フォーラムをやることで次の事業へ結びつくといったものがあると思うが、どのような見通しをたてているのか。

発表者 : 障害者とアーティストで作る連続講座の4期を予定しているが、フォーラムを利用し総まとめを行いながら3期分の経験等を4期につなげていくとともに、さらなる参加者や応援者を増やしていきたい。

【9番 B - 新 - 8】

「お話し相手」元気ネット  
(特定非営利活動法人 日本ウェルネット)

< 質疑応答 >

山家委員 : このお話し相手事業というのは、全く新しく始めるという理解でいいのか。

発表者 : 過去3年間、この企画事業として支援者研修を進めてきたが、その中でアソシエーターという相談対応ができる人材育成ができたので、その方たちの社会貢献の場として、この企画を計画した。

山家委員 : 相談は、月のうちの一定の日に一定の会場に相談したい人に来てもらって、アソシエーターが話を伺うという形なのか。

発表者 : 最初のきっかけづくりということでは、どうしても呼びかけをして来てもらう形となる。その中で、継続して相談に乗ってほしいということがあれば、希望によりご自宅などを訪問させていただくようなこともある。

山家委員 : 対象としては、子育ての悩みとか高齢者や障害者の方を想定しているようであるが、例えば高齢者の方などは、決まった日に決まった場所に行き初対面の人に悩みを相談するということは、ちょっと考えにくいように思うが、その辺はどのように考えているか。

発表者 : ご指摘の通りだと思う。過去の経過からいっても、本当に困っている人が会場に足を運ぶということは大変なことである。そういったことから今回は、アソシエーターができるだけ市民の方と知り合うといったムードづくりを考えており、応募事業とは全く別のものであるが、市の相談ふれあい委員にアソシエーターを応募させる予定であり、自分達の目的とする部分に対する悩みを持つ方たちの吸い上げをしていきたいと考えている。

また、他の既存の施設や組織には、自分達のところには届かない情報やケースがあるが、そういったものも集められるようなネットワークを持った組織づくりをしていきたい。

山家委員 : 高齢者等を見守っていく機能として、地域に民生委員がいるが、その民生委員との連携をどう考えて行くか。

発表者 : 個人情報の問題など難しい部分はあるが、連携は図っていきたい。

【10番 B - 新 - 9】

「服部幸應講演会「食育と地域」」  
(ムッシュ手づくりパンの店)

< 質疑応答 >

伊藤委員 : 活動実績の中で「平均週240個」の手づくりパンの販売とあるが、どこで販売をしているのか。

発表者 : JR八王子支社、右田病院、市役所など。月・水・金で焼いて各80個

が限度。体制は6人くらいの障害者と補助するボランティア数名。話し相手をしながら少しずつやっている。去年の11月に半年通った方が復職している。

伊藤委員 : 自立した方へは就職の斡旋も行っているのか。  
発表者 : そうではない。軽い症状の方のみの対応なので、休職の復帰を手助けする程度になる。奥が深いので当団体でできる範囲は限られる。

伊藤委員 : 販売数は増える見込みか。  
発表者 : 増える見込だが、八王子市の障害者に対する文化が遅れているので、ボランティアが集まらない。市民へはうつ病への理解はしていただいていると感じている。

玉野委員長 : 昨年の講演会の参加者数は  
発表者 : 1800枚発券して850人の来場者があった。

玉野委員長 : 今回の講演と日ごろの活動との関連性は  
発表者 : 当会の活動内容はパン作りなので「食」と関連する。また、当会がうつの方の会であることをPRしたい。社団法人農山漁村文化協会「食と農の応援団」の団員である服部氏に食べ物のバランス等について講演していただきたい。

#### 【11番 B - 新 - 11】

「八王子市成人の日 記念講演」  
(八王子青年団体連絡協議会)

#### < 質疑応答 >

玉野委員長 : 講師の選定、見通しは。対象である青年を集めるのか。  
発表者 : 講師については、当事者(若者)が選定するべきと考えているので選定していない。募集に関しては各大学を通じて行う。また、市広報やチラシ等も使う。

玉野委員長 : 事前PRは。  
発表者 : PR用チラシ、ポスター、新聞折込み(新聞広告)を考えている。

玉野委員長 : 寄付金収入(100万円)の見通しは。  
発表者 : 現在はない。若者の活動を通じて、それに見合う金額を集めたい。

西委員 : 成人式当日同じ会場で行うのか。  
発表者 : 去年は1日前に実施した。対象が9,000人のうち2,000人くらいしか会場に集まらないので、日を変えて参加してもらいたい。成人式の前後に実施したい。会場は学園都市センターで予定している。

西委員 : 成人式は式典よりも友人に会いに行くようなもの。人は集まるのか。日を変えたと集まらないのでは。  
発表者 : 有名人等を講師として招待して集客数を確保したい。

#### 【12番 B - 新 - 12】

「八王子福祉ガイド 出版・ホームページ作成事業」

(わかこま自立生活情報室)

<質疑応答>

前野副委員長： 受け側は障害者や高齢者のためITに慣れていないのでは。対応はどうするのか。

発表者： 当団体は、障害者の自立支援を専門に行ってる団体。全国組織に加盟しているので、加盟団体に連絡し該当者へ伝えてもらう。

前野副委員長： 受け側でパソコン等の費用がかかってしまうのでは。

発表者： パソコン等の環境のない方へは、冊子で公開する。マスコミも利用する。

玉野委員長： 収支計画書の自己資金(608,000円)の見通しはあるのか。

発表者： すでに確保済の資金である。

玉野委員長： 収入面でカンパや冊子の有料は考えているか。

発表者： 市場が小さいので財政に結び付くのは難しい。今後考えていきたい。

【13番 B-新-14】

「宇津貫町の地誌と生活文化 - 八王子ニュータウンの礎に - 」出版」

(宇津貫みどりの会)

<質疑応答>

西委員： 1000部の販売経路は。

発表者： 地元へ歩き個別に説明しながら販売をする。近隣小中学校へは寄贈する。個々の会員や、一般の書店でも販売を考えている。実績から売り切れる自信はある。価格は未定。

西委員： 小中高への総合学習と考えているが、小学生でも分かる内容なのか。

発表者： 以前、当会会員が小学校の総合学習で説明をした経験を生かし、絵を増やしたので各世代に分かりやすいものとなる。

前野副委員長： 売上金の使途は。協力金の見通しは。

発表者： 協力金は2003年に絵地図を作成した際の黒字分。今回の黒字分は今後の違うマップ作りに充てたい。

【14番 B-新-15】

「地域社会の活性化を図る講演会、趣味の作品展」

(特定非営利活動法人 めじろむつみクラブ)

<質疑応答>

山家委員： 具体的な講師のイメージは。

発表者： 八王子の歴史を中心に考えている。千人同心、車人形など。また、八王子の産業を取り上げたい。若い層も対象としたい。具体的には決定していない。

山家委員： 作品展については。

発表者： 昨年の実績としては、11月下旬にめじろ台駅前で行い、土日で243人の来場者があった。出展者43名、出展数83点。会場のスペースにはまだ若干の余裕があるので、来年度はもっと増やしたい。出展要望も

多い。

- 玉野委員長 : 事業の地域範囲は。  
発表者 : 日常の活動(主に日曜大工)めじろ台周辺で活動している。めじろ台含め周辺人口は1万人くらいで28%が高齢者のため、活動地域は限定になってしまう。

【15番 B-新-16】

「おわら風の盆 in 八王子」  
(八王子「おわら風の盆」の会)

<質疑応答>

- 伊藤委員 : 事業収入(170万円)の見込みは。  
発表者 : 当会で企業へ声をかけ、寄付(協賛)をいただき、ぼんぼりに協賛者の名前を入れる予定。(6面のうち2面)
- 伊藤委員 : 17年度の参加者はどのくらいであったか。(招待客250名)  
発表者 : 本場は夜に行うものであるが、昼間開催をお願いし、駅ビルの屋上で実施。八王子老人会連合会を招待した。
- 伊藤委員 : 八王子市でのおわらの祭りとしての将来展望は。  
発表者 : 八王子にもおわらの研究会がある。その会の方に勉強会や研修会を実施していただき参加者を増やしたい。
- 前野副委員長 : 昨年までの事業と予算額としてあまり変わっておらず、寄付金等で自立していると思われるが、市民企画事業補助金に申請した理由は。  
発表者 : 今後は「魅せる」から「参加する」(市民イベントとしての)方向に変えていきたい。

【16番 B-新-17】

「パソコン・インターネット市民講座」  
(情報ボランティアの会(八王子))

<質疑応答>

- 玉野委員長 : 実績のある団体だと思うが、市民企画事業に申請した理由は。  
発表者 : PRに力を入れたい。集客がなかなか見込めない講座もパソコン操作をするにあたって、当会としては必要と感じているので行っていきたい。
- 玉野委員長 : 講座回数は増やさないのか。  
発表者 : 通常の活動の延長になる。18年度の結果を踏まえ考えていきたい。また、事業を拡大するには団体の自己負担も大きくなるので、今回はこの回数で申請した。

【17番 B-新-18】

「四季の植物誌～親子で学ぶ自然観察～」  
(四季の植物誌の会)

<質疑応答>

前野副委員長： P R方法については。  
発表者： 17年度に4回実施した際は、市内69校の小学校にチラシを郵送した。会場近郊の小学校には会員が直接校長へ案内した。近隣町会の回覧版でも行った。

玉野委員長： 今回応募については参加者を増やすのか、団体のP Rなのか。  
発表者： 参加者は25～30家族。多く募集したいが、会場では起伏の激しいところを歩いたりするので、スタッフが対応できる範囲になってしまう。18年度は25家族を限度に考えている。応募した理由としては、活動のP Rや市街地近郊に緑がたくさんあることを知ってもらいたい。また、現在はセミナーハウスに協賛してもらっているが、セミナーハウスの本来の主旨と相違しているため、会として自立していきたくと考えている。

#### 【18番 B - 新 - 19】

「学生とシニアのコラボによる「Café CUE」運営事業」  
(Bomb)

##### <質疑応答>

山家委員長： 週2名体制の見通しは。単純計算で月16名必要になるが。  
発表者： 現在、運営メンバー8名、ボランティアスタッフ5～6名は確保できている。シニアについては八王子ボランティアネットワークと連携して調整中である。

玉野委員長： 現在営業等の活動はしているのか。  
発表者： 水面下で店舗デザインの美大生10人くらいは確保できている。

玉野委員長： 実績がないなかで180万円の収入は確保できるのか。規模が大きいのでは。  
発表者： カフェの運営のほかにギャラリーを美大生へ有料貸し出しを行う予定。

前野副委員長： 長期的な人材確保の見通しは。  
発表者： ボランティアスタッフはカフェ運営用。シフト制にするので、問題ないと考えている。シニアについては調整中である。

玉野委員長： 補助金なしでもスタートできるのか。  
発表者： 現段階では補助金がないとできない。

玉野委員長： 補助金が交付されないと事業は中止になるのか。  
発表者： 不採択の場合は、市内のイベント等で委託販売をしながら運営のスキルを上げていきたくと考えている。その場合店舗を持つのも不可能である。

#### 【19番 B - - 1】

「学校図書館支援事業」  
(八王子に学校図書館を育てる会)

##### <質疑応答>

山家委員長： 継続事業になるが、これまでで行政との連携はとれているのか。  
発表者： 学校教育部指導室や図書館が担当課であり、連携はとれている。

山家委員 : 17年度までの活動で成果を実感した例はあるか。  
発表者 : 3年間で20名以上会員が増えた。出張講座として学校へ行くことにより、現場の声が聞けて、ボランティアの効果が高まることが実感できた。

山家委員 : 講座講師謝礼1万円をお願いできるのか。  
発表者 : 講演会は全国的に有名な方に依頼するが、講座は会員のつてや会員が行ったりするため対応できる。

玉野委員長 : 実施計画書のなかで「要望書の提出」とあるが、提出先はどこになるのか。  
発表者 : 毎年教育長へは提出している。また、17年度は市長へも提出した。

#### 【20番 B - - 2】

「東京スポーツビジョン21 スポーツクラブ活動事業」  
(特定非営利活動法人 東京スポーツビジョン21)

##### <質疑応答>

伊藤委員 : 参加者の募集方法は。  
発表者 : 17年度は市広報や八王子サッカー協会、日本ラグビー協会のホームページで募集を行った。来年度はこの他に民間のフリーペーパーも利用したい。

伊藤委員 : 17年度の参加者60名は予定通りなのか。  
発表者 : 予定より少ない。募集方法の改善を検討している。

伊藤委員 : 18年度は会員数をどのくらい増やす予定であるのか。また、18年度の会場は確保してあるのか。  
発表者 : 現在会員は93名。募集方法等を改善し増やしていく。会場についてはまだ時期的に予約できないので未定である。

伊藤委員 : 団体の事業としてはサッカーが中心になるのか。  
発表者 : サッカーを核として考えている。スポーツ全般というよりもサッカーの周りに他種目があると考えている。

前野副委員長 : 予算書からは自立していると感じるが、市民企画事業として応募した理由は。  
発表者 : 制度が市民へ浸透してきていると感じている。そのため、募集の面でもメリットが大きいと考えている。

#### 【21番 B - - 3】

介護予防のまちづくりで高齢者と地域を元気にする  
(特定非営利活動法人 ワークスコープ)

##### <質疑応答>

玉野委員長 : 平成17年度とほぼ同じような内容で取り組むということだが、17年度の総括あるいは実績を踏まえて平成18年度に取り組んでいく変化や工夫の部分について説明していただきたい。

発表者 : 17年度は市の広報を見て参加した方々のみであったが、参加者の意見からは健康の状態やこういう事業が必要だとの声をいただいたので、広く八王子市民の方々に浸透していきたいということと、利用者たる市民が主体となって健康なまちづくりに取り組むことによって地域ごとのつながりになるということにもなり、住み慣れたところで暮らしていきたいという思いをみんなでカバーし協力していくということになると思うので、今回は大々的に募集しながら、一人でも多くの方々に知識を少しでも学んでいただけていければということを考えている。

玉野委員長 : 実際に研修や講座の参加者から、こういう地域での活動が生まれそうであるとか、そういうところに支援しているといった事例はあるか。

発表者 : 1月にサポーター研修を行った。その修了生の中から、体操というものに興味があり、必要だという話があり、そういう展開になってきている。

## 【22番 B - - 4】

### 第2回八王子まちかど・まちなみコンテストの開催 (特定非営利活動法人 らいふ舎)

#### <質疑応答>

前野副委員長 : 平成17年度から引き続きということで、事業内容は変わらないという考え方でよいか。また、17年度では応募186点のうち、81点を展示したということだが、その差は学校の協力を得て実施したことに関係しているのか。

発表者 : 基本的な内容は昨年と同じように実施したいと思っている。ただし、広報とか、また、できれば企業その他の組織の協賛を得つつ、いずれ市からの助成金だけでなく、何らかの形で展開していきたいと考えている。展示数については、学校単位でクラス全員で同じ場所を描いたところもあり、物理的な掲示スペースの関係もあり、学校側への承諾を得た上で作品数を絞らせてもらい展示した。

前野副委員長 : 予算で他の事業による収入及び企業協賛とあり、金額的に大きい割合を占めているが、見通しはあるのか。また、17年度と比較してどれくらい企業協賛があるのか。

発表者 : 17年度は企業協賛を得られていない。18年度は市民企画事業の限度額100万円に合致する部分についてまちづくりの事業として助成金を応募することを見込んでいるが、助成金がどこまで得られるかはわからない。それとは別に、17年度の実績を元になんらかのPRをしたいと考えている。

玉野委員長 : 2回、3回と続けるということで、17年度初めて実施した手応えはどうだったか。継続できそうなのか、難しいと感じている部分があるのか。

発表者 : 質的なものでいえば、展示された内容や参加された方から見れば間違いなく継続できるといえる。あと広報という点ではもっとみなさんに知ってもらおうよう、力を入れる必要を感じている。17年度は当初準備に時間がかかったが、18年度は事業を引き継いで行きたい。現在は横山南市民センターで作品展を継続して展開させてもらっており、今後も市の施設でも展示させていただきながら、次のPRをかねてやっていきたい。ホームページも17年度のものを公開した上で、次の募集をやるように

していきたい。アンケートでも、この事業知っている方が少なかったの  
で、可能性はまだあると思っている。

- 玉野委員長 : 将来にやっていくために、財政面で、参加費なり入場料などを考えざる  
を得ないと思うが、その点についてどういう風に思っているか。
- 発表者 : 同じ形で続けていくかという問題はありますが、現実的に、多摩信用金庫の  
多摩ライフクラブというまちづくりや地域との関係を持つ部署との交  
流もあり、まちあるきを一緒にやったりしているので、資金あるいは違  
う形での協力を得ながら、地域とのつながりをもたせるコンセプトを基  
にいろんな展開をしていければと考えている。

【23番 B - - 5】

「わくわく子ども発明塾」  
(特定非営利活動法人 発明協会)

<質疑応答>

- 西委員 : 17年度は夏休みを中心に発明塾を開講されたようだが、18年度も夏  
休みを中心に開催するのか。
- 発表者 : 実施の要領は17年度とほぼ今年と同様に考えている。ただし、募集に  
関しては収益を意識して自立に向けてのステップを踏むことを考えて  
いる。
- 西委員 : スタッフ等は拡大していく予定はあるのか。
- 発表者 : スタッフについては、拡大というよりも常時NPO法人に本事業にかか  
わっているスタッフがかなりいるので、多彩な人材により、交代で協力  
体制がとれると考えている。
- 西委員 : 小学校高学年から中学校低学年あたりの子供を対象としているのか。
- 発表者 : 小学校4年生から中学校3年生を対象として企画したが、実績では、小  
学校2年生から中学校1年生が参加していただいている。
- 西委員 : 広報活動は小学校や中学校と連携して行ったのか。
- 発表者 : 17年度については、市の広報や施設にポスターとチラシを置いていた  
ただだけの活動で、直接小中学校に話をもっていっていない。
- 西委員 : 今後そういった広報を行う予定はあるのか。
- 発表者 : 多くの方に我々の考え方や活動を知っていただく意味を含めて、学校に  
お願いすることも考えている。
- 玉野委員長 : 参加した子供は何名くらいになるのか。
- 発表者 : 17年度実施している活動については15名。
- 玉野委員長 : 最初から最後まで同じメンバーで、補充や入れ替わりはないというこ  
とか。
- 発表者 : そのとおり。当初から、そのメンバーで計画の段階から成果を得るまで、  
活動をしている。
- 玉野委員長 : 今年度は20名くらいまで増やすということなのか。

発表者 : 昨年の反省点を踏まえて、より広範囲に募集をしたいと考えている。今まで築き上げた人間関係で、実施可能の段階になったら申し込んでいただけるという方も既にかなりおられる。

前野副委員長 : 活動母体が日野市ということで、日野市でも同じような活動をしているのか。

発表者 : 現在は八王子市を中心に活動しており、日野市では活動していない。

#### 【24番 B - - 6】

長池こどもの居場所作りの会  
(長池こどもの居場所作りの会)

##### < 質疑応答 >

山家委員 : 広場として通常は自治会館の中を使っているとのこと、広さはどれくらいのものか。

発表者 : 2部屋確保しており、動く遊ぶのほうは約150㎡=約40畳くらい。静の遊びで使うほうは、読書やゲームをしたりする用途で約15畳くらいである。

山家委員 : ボランティア10名程度のスタッフ体制で実施することは、あまり無理なくできているのか。今後も実施していけそうか。

発表者 : ほかにリタイアした年配の方も協力いただけることもあるので、プラスで数人いるが、夏で2~5時、冬で2~4時の2・3時間のため、現在はローテーション的に問題はない。

山家委員 : 補助のない平成20年度以降の収支について、会館の利用料とボランティアへの人件費の削減を予定しているようだが、事業規模の縮小というよりも新たな財源を考えていないのか。

発表者 : 長池地区のぼんぼこ祭りに、17年度に初参加した際は、10万円ほどの収入があった。18年度はもう少し策を練れば収入が上がると思うので、これを課題としていきたい。

玉野委員長 : 18年度は、集まった子供たちをある程度組織化したりするなど新しい展望は持っているか。

発表者 : 子供たちの自発的な活動をサポートするというのも、大きな活動方針である。前年度はそこまでいかなかったなので、その点を強調して子供たちを動かしていければと思っている。

#### 【25番 B - - 7】

学園都市八王子のおみやげを研究しよう！！  
(八王子学生郷土さがし隊！！)

##### < 質疑応答 >

伊藤委員 : ターゲットは受験生とその親か。

発表者 : 17年度に実施したアンケート結果として、学生のみをターゲットにするよりは親類を第一に考えたほうが、売上がいいのではないかと。また、企業等に社会貢献活動の一環として買い取っていただくということを検討している。

- 伊藤委員 : 普通の企業か。  
 発表者 : 普通の企業に、合格鉛筆を何らかの形で提携していただくなど。まだ、具体的には決まっていない。
- 伊藤委員 : 価格はどうか。  
 発表者 : 価格に関しては、慎重に決める必要があり、17年度は紙の袋を使ったが、きちんとした箱を作ったほうがありがたいが。そうすると、コスト的にもかかると思うので、今後慎重に検討していく。
- 伊藤委員 : 収入の16万の見込みは、概ね1本どれくらいの設定か。  
 発表者 : 制作費は鉛筆が、版代込み1,000本で4万円なので、1本あたり27円だった。実際何本売れるかは決めていないが、相応の価格を設定していく。
- 伊藤委員 : 八王子で受験する方は年間どれくらいいるのか。  
 発表者 : まだ、調べていない。
- 玉野委員長 : 八王子のお土産として、鉛筆がどれくらい支持されるかどのように考えているか。  
 発表者 : 高尾駅の菅原道真の銅像があるが、文神としてのご利益にあやかって試作してみた段階である。今後鉛筆が八王子の学園都市を象徴できるかについては販路等を含めて浸透させていくことが必要だと考えている。現状では鉛筆＝八王子という直結では考えていない。
- 前野副委員長 : ロットというものがあると思うが、1,000本単位でできるものなのか。かなりのロットでないともコストダウンができないと思うが、採算にあうのか。  
 発表者 : さまざまなお土産をみた限りでは、鉛筆というものはコストを低くできるという調査に基づいて試作を作ってみた。今後、コストダウンを考えながらも収益を見込める価格設定を検討していきたい。

## 【26番 B - - 1】

八王子アマチュア映像祭  
 (八王子アマチュア映像協会)

### < 質疑応答 >

- 玉野委員長 : やり方によっては自立していける団体だと思うが、今後補助事業との関係や自前でやっていく展望を持っているなどの考え方を教えてほしい。  
 発表者 : 補助期間が終わった際には、自立していける見通しとなった。補助金をいただいてきたおかげで観客の確保という点でも順調に推移してきた。
- 玉野委員長 : 継続していく中で、問題や新しい試みにチャレンジするといったことが出てくると思うが、その時には、改めて補助事業に申請してステップアップした活動をしていくことを検討して欲しい。
- 前野副委員長 : 交通の便や音響の関係でクリエイトホールでの活動をしているのだろうが、市内の各地域での展開は考えているか。  
 発表者 : クリエイトホールのような大きな会場で行うのが、本補助金の申請の動

機であったが、今後の課題として各所で移動しながら上映していくことを視野に入れていかねばならないと考えている。ただし、首都圏各地のクラブから来る方もおるので、駅の傍というのははずせないと思っている。

【27番 B - - 2】

COOL DESIGN CONTEST

(八王子商店研究会)

< 質疑応答 >

前野副委員長： 17年度に市ではエコバッグのデザインを募集したが、そこでの連携はしていたのか。

発表者： 昨年から出ている話で、前回のプレゼンでも話させていただいた。当団体のエコバッグは17年の3月に作ったもので、事前に市に話をしていたが、17年12月になって市からエコバッグの話が出てきた。その時点では市からの話しはなかった。

前野副委員長： 市のエコバッグは公募だったが、応募したのか。

発表者： 市の応募条件がオリジナルで未発表のものということだったので、コンテストで使われたものはあたらないとの判断で、応募は見合わせた。

玉野委員長： 補助金の上乗せで申請しているが、クライアントを増やすとか、出品する方からもある程度の参加費を取るなり、自前でやっていくことは考えられなかったのか。

発表者： 美大生など金の卵を発掘しようとするコンセプトのため、応募していただく方からの参加費を取ることは考えていない。

玉野委員長： たいした額でなくてもある程度は集めるのは可能。補助金がなくては実施できないということでは、むしろ応募しようとする出品者の場がなくなるということでもある。今回上乗せを認めても続かないのでは、折角の成果の意味がないと思うが。

発表者： 広告媒体なので、使う側、商業者がお金を出すべきものと考えている。

【28番 B - - 4】

安心・元気な子どもの居場所づくりプロジェクト

(八王子子どもの居場所づくりプロジェクト)

< 質疑応答 >

西委員： 大学生サークルの交流ネットワーク事業について、5～7月にかけての呼びかけは、どういった形で呼びかけるのか。

発表者： 各大学のサークルや八王子の学生委員会など、児童文化研究会とか子供たちにかかわるところに呼びかけていく。実質的には児童館の職員から紹介してもらうことが多い。

西委員： 市域23大学すべてつながりはあるのか。

発表者： そこまでは、情報を届けていないので、参加いただいたところからつなげていくことになる。

西委員 : 今、大学生はどれくらい参加しているのか。  
発表者 : 大学生としては、20人弱。17年度の夏休みの時は7～8人だった。

西委員 : 今後、団体として関係を継続していけそうか。  
発表者 : 夏は人数が減ってしまったが、17年度3月に再度計画しているので、活動を継続していきたい。そうすることで、学生の代替わりによって関係が切れてしまわないよう、大学のサークルともつながって継続していくことができると思っている。

西委員 : 活動していく上でボランティアの数は足りているか。  
発表者 : 数は多ければ多いほどいいが、大きなイベントをするわけではないので、一時的に大人数が必要にはならない。少人数でも継続して協力いただけるような関係をつくることができればと考えている。

山家委員 : 収支計画書の支出の部で、上3行の事業について具体的に説明して欲しい。

発表者 : 安心たまり場というのは、安心安全マップづくりにかかわる費用。情報を集めたり、地図を作ったり、配布したり、インターネットという手法も考えている。

たまり場事業というのは、講師を派遣したり、たまり場を作っていくプレリーダーとしてボランティアを集めたりするための費用。

学生交流会は、大学のサークルに呼びかけて学生のスキルアップをし、懇親会を行っていく事業のための費用。

#### 【29番 B - - 5】

地域特産品の開発（桑を利用したお土産品として地域食品名産品）

（特定非営利活動法人 地域生活文化研究所）

#### < 質疑応答 >

山家委員 : 17年度に拠点を設立し、18年度は設立に伴う整備ということだが、既に拠点は設立したのか。

発表者 : 追分町の1階を考えており、市産業政策課と相談しており、見通しが立っている。

山家委員 : 施設整備要員確保の事業と、収支計画の関係について説明して欲しい。

発表者 : 桑がどれだけできるか、粉にするのにどれだけの人員が必要なのか、まだ見通しが立っていない。この点については今月教授と相談する。また、谷津製粉が状況により支援していただけることになっている。とりあえず、いい桑の葉をつくることで動いており、予算枠が曖昧で申し訳ないが、従来桑の粉をメーカーから直接仕入れていて安く買えたが、今回は自家生産で、コスト計算が充分でなく、5月ごろにならないと見通しがたたないが、おそらくコスト的に相当かかると思われる。製粉機についても折衝中である。

山家委員 : 支出の部の桑粉80グラムというのは地元の粉を使う前提ということか。  
発表者 : そのとおり。

玉野委員長 : 最終的な地域特産品の開発という点ではどういう現状だと捉えているか。  
発表者 : 健康志向の方々に売りたい。和菓子産業やそば・うどんが考えられるが八王子にはケーキ屋が多く、そういう点では進まないかと思う。また、八王子は昔からささがけが名物だったので、これを有効に使うにはやはり和菓子がよいと考えている。

【30番 B - 新 - 10】

JOYCCOちびっこ倶楽部

(特定非営利活動法人 八王子子ども劇場)

< 質疑応答 >

伊藤委員 : これまでも子どもと親の関係で事業をしているが、今回新たに申請した上で、これまでと違うところを説明してほしい。

発表者 : 17年度は親子のコミュニケーションについて取り組んできたが、親子で触れ合うということが、0、1、2歳のころから始めないと本当に難しいといった課題が見えてきたので、今回乳幼児を対象とした新しい企画を立てた。

玉野委員長 : 会の活動として次は幼児をもつ親子の支援が必要と判断したのはわかるが、その公的な意義についてもっと検討してほしい

発表者 : 考えていきたい。